

コーパス・データにおける whoever と whomever の現れ方について

長原 和子

1. はじめに

OED では whomever を “the objective case of whoever” と定義しているが、江川 (1964²: 77) は次のような用例を挙げて、口語では格の区別は厳密に守られず、動詞や前置詞の目的語として whomever の代わりに whoever が使われることがよくあると指摘している。

- (1)a. You can give it to whoever you like.
b. You'll have to take care of the duck whoever it belongs to.

また、Biber *et al.* (1999) は、whom については詳しいコーパス調査をおこなっているが whomever についてはおこなっていない。そこで本稿では英米の新聞雑誌の中で使われている whoever と whomever の用例を検索し、品詞別、構文別にそれぞれの語が現れる事例の頻度を調べ、それぞれの語の使われ方の違いを見ていくことにする。利用した CD-Rom 版のコーパス・データは、英国で発行された *The Times* (1993年度分, 1994年度分), *The Sunday Times* (1993年度分, 1994年度分), *The Guardian* (1994年度分), *The Observer* (1994年度分) と米国で発行された雑誌 *Time* (1989年度分~1994年度分) と *The New York Times* (1996年度分, 1997年度分) である。英国で発行された新聞雑誌のデータの総量は約756メガバイト (MB), 一方、米国で発行された新聞雑誌のデータの総量は約810メガバイト (MB) でほぼ同量となっている。

検索資料を検討する前に、まず whoever について、ジーニアス英和辞典に載っている3つの用法と用例を見ておくことにする。(2), (3), (4)はそれぞれ(5), (6), (7)に対応する。

- (2)a. する人は (だれでも) (関係詞)
b. [通例譲歩節を導いて] だれが [を] …しようとも (関係詞)

- (3) いったいだれが [を] (疑問詞)
 (4) [or~] だれか (そのような人)
 (5)a. Whoever finishes first gets a prize.
 b. Whoever comes now, I won't let him in.
 (6) Whoever told you that?
 (7) Give this to Jim, or Jill, or whoever.

(4)の用法について付け加えると、*Cobuild English Dictionary* も 'or whoever' の形の用例のみを挙げているが、検索資料の中には、(8)に示したように、whoever が単独で現れている用例も見られる。

- (8) He contrasts his good fortune with tough times for the arts elsewhere: "I gather that in London at the moment, things are fairly desperate and it is very difficult, so we are really thanking whoever for being in the position we are." (*The Sunday Times*, Aug. 15, 1993.)

そこで、ジーニアス英和辞典は(4)の用法にたいして品詞名を挙げていないのであるが、限られたものとはいえ(8)のような用例も存在するので、(7)や(8)の whoever を不定代名詞と呼ぶことにする。以下では、疑問詞、不定代名詞、関係詞として使われた whoever の検索資料に現れた用例を見ながら whomever の用例との比較検討をする。

2. 疑問詞としての用法

はじめに疑問詞として使われた whoever の用例を取り上げることにする。(9)はその調査結果である。

- (9) whoever の用例

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	57例	1例	0
米国の新聞と雑誌	32例	0	0

whoever が主語として機能している例が89例、補語として機能している例が1例あったが、

面白いことに、動詞の目的語、前置詞の目的語として機能している例は観察されなかった。一方、疑問詞として使われた *whomever* の例は観察されなかった。このように、目的語として機能する *whoever* や *whomever* の例が無かったのは、目的語に較べて主語を強調する方が言語を使用する上で自然であるからではないかと考えられる。*whoever* が疑問詞として使われている全用例90例の内、58例が英国で発行された新聞に出ていたもので、用例全体の約64%を占めている。個々の用例について、例文の発話者や書き手が英国人なのか米国人なのか確認していないので、この観察から即座に、アメリカ英語に較べて、イギリス英語の方が *whoever* を多く使用すると結論づけることはできないが、以下で見る関係詞、不定代名詞の場合にも同じ様な傾向が見られるのは興味深い。(10)は補語として機能している *whoever* が現れている唯一の用例であるが、(10)の *whoever* は統語的には補語として機能しているが、意味的には 'said' の主語として機能している。

- (10) *Whoever was it that said that European practice would have no effect on the UK's competition policy? (The Guardian, Jan. 6, 1994.)*

3. 不定代名詞としての用法

不定代名詞の *whoever* の用例から見ていくことにする。*whoever* が不定代名詞として使われている用例は73例あり、その内英国で発行された新聞に載っていた例は44例である。(11)は、文中における *whoever* の用例を機能別に分けて示したものであり、(12)は *whoever* が主語、補語、目的語として使われている用例である。

(11) *whoever* の用例

資料	機能		
	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	8 例	3 例	33例
米国の新聞と雑誌	6 例	4 例	19例

疑問代名詞の場合と同じく、不定代名詞の *whoever* は米国の新聞雑誌よりは英国の新聞に多く観察され、英国の資料において観察された不定代名詞 *whoever* の用例は不定代名詞の用例全体の約60%を占めている。また、先に見た疑問詞の場合ほどではないが、主語として機能している用例と目的語として機能している用例の数に差があり、不定代名詞の場合は後者の用例の方が多く見られる。

- (12a. If the French farmer, fisherman, ferry hand, docker, lorry driver or whoever goes berserk, then someone else must suffer and make it good. (*The Sunday Times*, Feb. 28, 1993.)
- b. Every child dreams to be a prince; every adult has a secret closet dream to be Rambo and kill your enemy, regardless if it's your boss or communists or whoever. (*Time*, Dec. 24, 1990.)
- c. The card issuer is jointly liable with the tour operator, travel agent or whoever if something goes wrong. (*The Times*, Apr. 30, 1994.)

一方、whomever が不定代名詞として使われている用例は全部で10例あり、その全てが目的語として機能している用例であった。(13はその調査結果である。(14は whomever が前置詞或いは動詞の目的語として使われている用例である。

(13) whomever の用例

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	0	0	2 例
米国の新聞と雑誌	0	0	8 例

- (14a. Forgetting is all we do. We so feel ourselves forgetting that we contrive monuments of stone—to vets, to cops, to Kahlil Gilbran, to whomever—to anchor ourselves in time. (*Time*, Jul. 3, 1989.)
- b. But we aren't permitted to entertain the fantasy that the defending champion Atlanta Braves would have swept the 1927 Yankees or the 1929 Athletics or whomever. (*The New York Times*, Oct. 6, 1996.)

(11)と(13)の調査結果から、英米の新聞雑誌では、動詞や前置詞の目的語として whomever より whoever が、多く使われていることが観察される。whomever の用例については、疑問代名詞の場合と同じく、主語として機能している用例は一つも観察されなかった。これは当たり前のことのようにであるが、後に見る埋め込み節を導く関係詞としての whomever では主語として機能している用例が観察されるので、改めて指摘しておきたい。動詞や前置詞の目的語

として機能している whomever の用例は全部で10例あり、そのうち8例が米国の新聞雑誌に現れていて、全体の約80%を占めているのは興味深い。次に取り上げる関係詞として機能している whomever についても同様に米国の新聞雑誌に多く観察される傾向が見られる。

4. 譲歩節を導く関係詞としての用例

譲歩節を導く関係詞 whoever についてまず見ていくことにする。(15)はその調査結果である。譲歩節を導く whoever は、目的語として使われるよりも主語や補語として使われる用例の方が圧倒的に多い。米国の資料について言うと、補語として使われている whoever の用例が主語として使われている用例とほぼ同数であるのは興味深い。

(15) whoever の用例

機能 資料	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	213例	146例	19例
米国の新聞と雑誌	102例	99例	11例

(16)はそれぞれ whoever が共に構造をなす関係節の中で、主語、補語、動詞の目的語、前置詞の目的語として使われている用例である。

- (16a. It is a game that has seized the imagination of the supporters of both clubs, some of whom attend every game at Twerton Park, whoever is playing. (*The Times*, Nov. 12, 1994.)
- b. Whoever the buyer may be, he will probably not need to take a crash course in eightsome reels or the arcane ceremonies surrounding haggis. (*The Sunday Times*, Dec. 18, 1994.)
- c. "Once you get on court you want to win, whoever you play." (*The Guardian*, Jun. 13, 1994.)
- d. Amnesty stakes its reputation on impartial and consistent reporting of human rights abuses, whoever they are committed by. (*Ibid.*, Oct. 26, 1994.)

(17)は whomever についての調査結果で、(18)は補語、動詞の目的語、前置詞の目的語として

whomever が使われている用例である。

(17) whomever の用例

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	0	0	4 例
米国の新聞と雑誌	0	5 例	5 例

- (18a. 'We are in the Congress unilaterally handing over to a President, whomever he or she may be, the right to veto all the work that we do here,' said Representative Louise M. Slaughter, a Democratic from New York. (*The New York Times*, Mar. 29, 1996.)
- b. Whomever he chooses as a replacement, Rostenkowsky may benefit from the testimony of several of the "ghost employees," who reportedly will challenge the prosecution's version of events. (*Time*, Jun. 13, 1994.)
- c. One of Sir Robin's most courteous habits is that, whomever he is in discussion with, he never looks at his watch. (*The Observer*, Feb. 13, 1994.)

(15)と(17)の調査結果から、疑問代名詞や不定代名詞の場合と同じく、whoever の用例は、米国の新聞や雑誌よりも英国の新聞に多く観察されることがわかる。英国の資料に現れる用例は全体の約64%を占めている。譲歩節を導く関係詞として whomever が使われる頻度は、調査結果からわかるように非常に低いが、14の用例のうち10の用例は米国の新聞や雑誌において観察され、用例全体の約71%を占めていて、不定代名詞の場合と同じく whomever の用例は英国の資料よりも米国の資料に多いという調査結果が出た。一方、不定代名詞の場合と同じく、主語として使われている whomever の用例は、観察されなかった。また、前節で取り上げた不定代名詞の whoever/whomever が目的語の位置に現れた用例は、(11)と(13)の調査結果から全部で62例あるが、その内 whomever の用例は10例で用例全体の約16%を占めるが、譲歩節を導く関係詞の場合は、39例のうち whomever の用例は9例で全体の約23%を占めていて、7%ほど多くなっている。

5. 埋め込み節を導く関係詞としての用法

最後に、埋め込み節を導く関係詞として使われている whoever と whomever の用例を見て

いくことにする。(19)はそのような用例の一つであるが、whoever は主節では前置詞の目的語として機能しているが、関係節内に対しては主語として機能している。

- (19) As President, Ronald Reagan often shot the breeze with whoever happened to dial his number. (*Time*, Mar. 26, 1990.)

従って、今まで見てきた疑問詞、不定代名詞、譲歩節を導く関係詞の場合と異なり、主節と関係節のそれぞれの場合に分けて、whoever と whomever がどのような文法的機能を持っているのかを調べていく必要がある。

まず、主節と関係節の両方において、関係詞が主語として使われている用例を見ていくことにする。(20)と(21)はそれぞれ whoever と whomever の調査結果である。

(20) whoever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 主語
英国の新聞		508例
米国の新聞と雑誌		396例

(21) whomever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 主語
英国の新聞		0
米国の新聞と雑誌		1例

(20)からわかるように、主節と関係節の両方において主語として機能している whoever の場合も、今まで見てきた用法と同じく、米国の新聞や雑誌より英国の新聞において多く現れる傾向が見られる。しかし、英国の資料に現れる whoever の用例の数は508例で、英米の資料全体の用例の数は904であるので、英国の資料は全体の56%を占めることになる。これを疑

問詞や譲歩節を導く関係詞の場合と比較すると、約9%、また不定代名詞と較べた場合は約4%、用例全体に占める割合が少なくなっている。このように、用法の違いにより、whoeverの分布の違いが英米の資料に見られるのは興味深い。また、これまでは whomever が主語として機能している用例は観察されなかったが、今回初めて、whomever が主語として機能している例が、whomever の使用頻度が高い米国の資料で観察された。(22)はその用例である。このような用例は今回の資料検索の対象にした資料では(22)のみしか観察されなかったが、本稿の考察の対象にしていなかった資料の中にも見いだされるので(23参照)、非常に珍しい用例ではあるが、whomever の生成を考えていく上で考慮しなければならない用例であると考えられる。

(22) At first, Mrs. Alexander and other neighbors were not sure what they should do. They decided upon each putting menorahs in their windows so that whomever had attacked the Markovitz home would have many other targets in the neighborhood. (*The New York Times*, Dec. 13, 1996.)

(23) That's because Hakkinen and Coulthard, whose McClaren's were vastly superior to the other cars, had made a pre-race agreement that whomever got to that corner would be allowed to win. (*Ibid.*, Mar. 9, 1998.)

次に、主節と関係節の両方において、動詞あるいは前置詞の目的語として使われている用例を取り上げることにする。(24)と(25)はその調査結果である。

(24) whoever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	目的語 目的語
英国の新聞		29例
米国の新聞と雑誌		15例

(25) whomever の用例

	機能(主節) 機能(関係節)	目的語 目的語
資料		
英国の新聞		13例
米国の新聞と雑誌		34例

(26)は whoever が、主節と関係節の両方において動詞の目的語として使われている用例と、両方の節で前置詞の目的語として使われている用例である。(27)は同じ環境に whomever が現れている用例である。

(26)a. Frank Cave, chairman of the National Union of Mineworkers Yorkshire area, said yesterday that the NUM would recruit and organise whoever Mr Edwards employed. (*The Guardian*, May 3, 1994.)

b. But if there is one constant factor in her career it is loyalty to whoever she works for. (*The Times*, Jan. 11, 1993.)

(27)a. Hong Kong's people will have no voice in selecting their new ruler. Instead, an electoral college of Hong Kong's elite, hand-picked by China, will ordain whomever Beijing chooses. (*The New York Times*, Oct. 29, 1996.)

b. Torre must have confidence in whomever he hands the ball to these days. (*Ibid.*, Jul. 4, 1997.)

主節と関係節において目的語として機能している whoever の用例は44例あり、その内英国の資料に現れる用例は29例であるから、後者の割合は約66%で、今まで見てきた用法の中では一番高い数字になっている。これは(25)の調査結果からわかるように、米国の資料においては、同じ環境では whomever が多く使われることがその理由であると考えられる。一方、whomever について見ていくと、英国の資料では13の用例が観察されたが、米国の資料では34の用例が観察され、後者の割合は約72%で、今までと同様に米国の資料に多く見られる傾向が見られる。今まで見てきた不定代名詞と譲歩節を導く関係詞の場合は、目的語の位置では、whomever よりも whoever が現れる頻度が高かった (whomever の出現率はそれぞれ約16%と約23%) が、今回は、whoever よりも whomever が現れる頻度が高く、英米の資料を併せて調べた場合では、91例中47例において whomever が使われ、全体の約52%を占めてい

る。さらに、米国の資料に限ると、49の用例中34の用例で whomever が使われ、全体の約70%を占めている。また、今まで見てきた調査結果においては、全ての場合において whoever の用例の数が whomever の用例の数より多かったが、主節と関係節の両方において目的語として使われている今回の場合は、(24)と(25)からわかるように whomever の用例の数の方が多い。このように、起こる環境によって、whoever と whomever の分布に差が見られるのは興味深い現象である。

次に、主節においては主語として機能し、関係節では目的語として機能している用例と、その逆に主節においては目的語として機能し、関係節では主語として機能している用例を取りあげることとする。いずれの場合も、今まで見てきた用例とは異なり、主節と関係節において whoever と whomever の文法的機能が異なっている場合である。(28)と(29)にその調査結果が示してある。

(28) whoever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 目的語	目的語 主語
英国の新聞		7例	270例
米国の新聞と雑誌		8例	179例

(29) whomever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 目的語	目的語 主語
英国の新聞		0	6例
米国の新聞と雑誌		5例	33例

(30a) は whoever が主節において主語として機能し、関係節において目的語として機能している用例で、(30b) は whoever が主節において目的語として機能し、関係節において主語として機能している用例である。(31)は whomever が同じ環境で現れている用例である。

- (30)a. It was a big dance with spotlights going around the room, and whenever the music stopped the spotlight stopped too, and whoever the spotlight was on had to make a speech. (*The Times*, Jul. 24, 1993.)
- b. As President, Ronald Reagan often shot the breeze with whoever happened to dial his number. (*Time*, Mar. 26, 1993.)
- (31)a. Today, Mr. Mubarak said that whomever President Clinton appoints to succeed Warren Christopher as Secretary of State should bring to that office 'a different working style' in trying to reverse the recent deterioration in the quest for broader peace in the Middle East. (*The New York Times*, Nov. 14, 1996.)
- b. They offered brochures, videos, posters, chocolates and fruit, making their pitch to whomever roamed into their rooms. (*Ibid.*, Aug. 6, 1996.)

⑳の調査結果によると、英米の資料に現れた *whoever* の用例は全部で464例あり、その内英国の資料に現れた *whoever* の用例は277例で、後者は用例全体の約59%を占めている。一方、*whomever* の用例は英米の資料に44例観察され、その内米国の資料に38例観察され、米国の資料が、用例全体に占める割合は約80%を占めている。また *whoever* と *whomever* の両方の用例に言えることであるが、主節において目的語として機能し、関係節において主語として機能している用例 ((30b), (31b) 参照) の方が、主節において主語として機能し、関係節において目的語として機能している用例 ((30a), (31a) 参照) よりかなり多い。*whoever* の場合は全体の用例の約97%, *whomever* の場合は全体の約89%を占めている。このことはよく指摘されている英語の性質である文頭に“複雑”な要素をおくことを避ける性質と関係があるのかもしれないが、単に主節の主語に節を含むことが“複雑さ”の原因とはならないことは、主節と関係節の両方において主語として使われている用例は、主節の主語に節を含んでいるにもかかわらず、㉑で見たように、約900例もあることからあきらかである。従って、“複雑さ”の性質についてはさらに考察する必要があると思われる。

㉑についてさらにつけ加えると、江川 (1964: 77) が指摘しているように、従来 *whoever* と *whomever* の選択はその後続の節内での機能が主語であるか目的語であるかによって決まると言われている。従って、関係節において主語として機能している (30b) のような *whoever* の用例は予想される用例であるが、一方、(31b) のように *whomever* が関係節において主語として機能している文は“文法的”に言うと正しくない文ということになる。Jespersen (MEG, vol. 3: 56-57) も (31b) のような文について言及していて、彼自身同じよう

な用例を多く列挙し、さらに NED には14世紀の Wyclif からの引用が載っていることを指摘している。Jespersen は、同じ様な環境で whoever が使われている用例も多く列挙していて、このことから whoever と whomever が同じ環境において、長い間使われ続けてきたことがわかる。

最後に、主節か関係節のいずれかにおいて、whoever と whomever が補語として使われている用例を見ていくことにする。(32)と(33)はその調査結果である。

(32) whoever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 補語	補語 主語	目的語 補語	補語 目的語	補語 補語
英国の新聞		11例	1例	10例	1例	4例
米国の新聞と雑誌		13例	10例	7例	1例	0

(33) whomever の用例

資料	機能(主節) 機能(関係節)	主語 補語	補語 主語	目的語 補語	補語 目的語	補語 補語
英国の新聞		0	0	1例	0	0
米国の新聞と雑誌		0	0	2例	0	1例

(34)は(32)の調査結果の用例を左側から順に示したものである。

- (34)a. Whoever it is may find there are days where he shares the judgment of Everette Dennis, executive director of the Freedom Forum at Columbia University: . . . (*Time*, Apr. 5, 1993.)
- b. Says American coach Carol Heiness Jenkins: "It will be more like tennis—the winner will be whoever is good on that day." (*Ibid.*, Feb. 10, 1992.)
- c. "The odds were pretty good that I wasn't coming back, so I thought I'd better enjoy myself and still do something for whoever it was that brought me back. . . ." (*Ibid.*,

Jan. 21, 1991.)

- d. “She becomes whoever she’s playing,” he said of the actress, a friend since their days at the Yale School of Drama. (*The New York Times*, Nov. 16, 1997.)
- e. Today she is free to be whoever she wants to be and dress accordingly. (*The Times*, Apr. 26, 1993.)

(35a) は whomever が主節において目的語として機能し、関係節においては補語として機能している用例で、(35b) は whomever が主節においても関係節においても補語として機能している用例である。(35a) について付け加えると、whomever は関係節において構造的には補語として使われているが意味的には目的語として使われていて、米国の資料において観察された他の2つの用例についても同じことがいえる。

- (35a). This, in part, may explain the phone call and the show of deference from John Singleton or Spike Lee or whomever it was he met last night. (*The Times*, Jul. 10, 1993.)
- b. “Though my daughter calls me a case of arrested development. I pretend to be whomever I’m supposed to be. . . .” (*The New York Times*, Apr. 28, 1996.)

これまでは用法の違いによって多少の変動はあったが、平均して6：4の割合で whoever の用例は英国の資料の方に多く観察されてきたが、(32)の調査結果においては、初めて米国の資料に観察された whoever の用例の数の方が多くて、(32)の用例全体の約53%を占めている。ここで、参考のために、whoever が疑問詞、不定代名詞、譲歩節を導く関係詞として使われている用例の調査結果を下記に再録して、(32)の調査結果について考えてみたい。

(36) 疑問詞としての whoever の用例 (=9)

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	57例	1例	0
米国の新聞と雑誌	32例	0	0

(37) 不定代名詞としての whoever の用例 (=11)

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	8 例	3 例	33例
米国の新聞と雑誌	6 例	4 例	19例

(38) 譲歩節を導く関係詞としての whoever の用例 (=15)

資料 \ 機能	主 語	補 語	目的語
英国の新聞	213例	146例	19例
米国の新聞と雑誌	102例	99例	11例

(36), (37), (38)において補語として使われた whoever の用例について、英米の資料の例の数を比較してみると、主語や目的語として使われた whoever の場合ほどは英米の資料の間に用例の数の差がみられない。たとえば、疑問詞の場合は、英国の資料で観察された用例が唯一の例であり、不定代名詞の場合は、英国の資料に3例が観察され、一方米国の資料に4例が観察されている。譲歩節を導く関係詞の場合は、英国の資料に米国の資料より47例多く観察されているが、主語や目的語として使われた用例に較べれば、用例の数の差は小さくなっている。従って、これと同じ様な傾向が、whoever が主節或いは関係節、または両方の節において補語として使われた(32)の場合にも見られるのは、自然であるように思われる。(33)の whomever の用例については、米国の資料に whomever の用例が2つだけではあるが英国の資料より多く観察され、3節や4節で見たのと同じ傾向が見られる。

参考文献

- Biber, D., Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad and Edward Finegan. (1999) *Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.
- Cobuild English Dictionary*. (1995) London: Harper Collins Publishers.
- 江川 泰一郎 (1964²) 「英文法解説」金子書房
- Genius English-Japanese Dictionary*. (1994) Tokyo: Taishukan.
- Jespersen, Otto. (1927) *A Modern English Grammar on Historical Principles*, vol. 3. London: George Allen and Unwin,
- Lasnik, Howard and Nicholas Sobin. (2000) "The Who/ Whom Puzzle: On The Preservation of an Archaic Feature" *Natural Language & Linguistic Theory*. vol.18.
- Oxford English Dictionary* (2nd ed.) on CD. (1992) London: Oxford University Press.